

### 例題 1

表は、4種類の果樹の生理障害とその要因について示したものである。表中のア～エに入るものがいずれも妥当なのはどれか。

果樹名	生理障害	要因
ア	浮き皮	秋の高温
ブドウ	イ	耐凍性の低下による凍害
リンゴ	ビターピット	ウの局所的欠乏
エ	いや地	前作樹体由来の青酸配糖体が分解されること

	ア	イ	ウ	エ
1. ナシ		花振るい	カルシウム	カキ
2. ナシ		眠り病	ホウ素	モモ
3. ウンシュウミカン		花振るい	ホウ素	カキ
4. ウンシュウミカン		眠り病	カルシウム	カキ
5. ウンシュウミカン		眠り病	カルシウム	モモ

正答番号 5

## 例題 2

土壌の構造に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 土壌を構成する固体、液体、気体の三つの相の体積比率の分布を三相分布といい、一般に、有機物の多い土壌は少ない土壌に比べて固相率が高い。
- イ. 土性とは、粒径分布によって分類される土壌の名称であり、砂、シルト、粘土の重量割合から決定される。
- ウ. 土壌水は保水様式によって重力水、毛管水、膨潤水、吸湿水に分けられる。これらのうち植物が吸収可能な水は重力水、毛管水、膨潤水である。
- エ. 土壌の団粒構造が発達すると、保水性、透水性、通気性、根の伸張性が高まり、植物にとって好ましい生育環境がつくられる。

- 1. ア, イ
- 2. ア, エ
- 3. イ, ウ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

正答番号 4